

桃名所

其ノ實小シテ味苦ク大ニ他ノ果木ニ異ナリ

〔大和本草十〕桃略○中

近年伏見ノ桃花盛ナル時一處ニサキ連ル事吉野ノ櫻ヨリ多シ遠處ヨリ見ル尤ヨシ凡桃久シケレバ花スクナク實不好秋ノ比切テ若立ヲ二本立テヨシ花實共ニヨシ梅杏李ノ枝ヲ桃ニ接ゲバ長ジャスシ

〔武江産物志遊觀〕桃

桃園四谷中野中里立

大師河原立春日より十日餘

隅田川堤

築比地葛飾郡

〔一話一言十六〕駒原桃花

三月十五日河原西川の兩氏にいざなはれて駒場御用やしき後藤氏をとふ後藤氏の案内にて駒が原のうち植木屋長七といへるもの、近比あらたに植し桃林をみる門のさし入の地をはらひきよめて、まだれ桃を兩行にうゆ左は六十八本右は四十本ばかり白桃櫻などもまじれりまだれ桃は深紅の色にして葉白くつくり花をみるごとし相模しだれといふ種なりとぞ庭のうちにも數十本つぎ穂してかこひ置り斑入の五葉松あり芝山あり池あり門のさし入より兩行の桃をみればさながらきぬがさをはりたてたらんがごとしがへりに松の間をあゆみて藤土筆白頭翁花などつみかへれり

きぬがさをはるかとはかりみちとせの桃の林やさしてゆくらんこの夕雨もよひしてくもりしが亥の時比やどりにかへるまでふらざりしも幸なりき

〔古事記上〕爾伊邪那岐命略○中

到黄泉比良此二字以音

坂之坂本時取在其坂本桃子三箇待擊者悉逃返

也豫母都志許

爾伊邪那岐命告桃子汝如助吾於葦原中國所有宇都志岐此四字以音青人草之落苦

瀨而患惚時可助告賜名號意富加牟豆美命自意至美以音

〔古事記傳六〕桃子は毛々能美と訓べし

凡ての木草に花をもて名るもあり實をもて名るもあり幹をもて名るもあり實を以名けたる梨栗柿な

桃雜載